

ウイスキーの父

日本ウイスキーの創始者は、竹鶴政孝と故郷イギリスを捨て日本にきた妻リタです。竹鶴の夢を至上のものとして疑わず、その夢の実現のために竹鶴を支え、彼について行くことが自分の役目であると信じた一人のイギリス女性の愛情ヒストリーが日本ウイスキーの発祥の礎となっています。

造り酒屋に竹鶴が生まれ、ウイスキーの製法を学ぶためにイギリスに留学し、リタと知り合う。たちまち恋に落ち結婚を意識するが、異国人との結婚は双方が反対したため、結婚式を協会で挙げることはできなかった。彼女にぞっこんだった竹下は「あなたが望むなら、このままこの国に残って職を探す」と言い出す。

だがリタの返事は違った。「いいえ、あなたは帰国すべきです。日本へ帰って、ウイスキーを造ってください。わたしもそのお手伝いをします」帰国した竹鶴はサントリーの前身「壽屋」に入社、今の山崎（大阪）に蒸留所を起し、日本のウイスキー製造の基礎を築いた。

その後、独立してよりスコットランドに近い気候の北海道で、よりよいウイスキー作りをするために退社し、資本を集め北海道余市で創業したのが現在のニッカの始まりです。

癖



むかし女のいじめっ子がいた意地悪したり、からかったり髪をひっぱるやらつねるやらいいイッ！と白い歯を剥いた

その子の前では立ち往生さすがの私も閉口頓首やな子ねえと思っていたのだが卒業のとき小さな紙片を渡された

ワタシハアナタガスキダッタオ友達ニナリタカッタノたどたどしい時で書かれていて

そこでワタシハ腰をぬかしいえぬかさんばかりになって

好きなら好きとまっすぐにぶつけてくれればいいじゃない遅かった菊ちゃん！もう手も足も出ない小学校出てすぐあなたは置屋の下地っ子

依頼いい気味 いたぶрийやがらせ さまざまな目にあうたびに 心せよ

このひと本当は私のことすきなんじゃないかとおもうようになったのだ

茨木のり子



人生の花

恋愛において、行為のすべては、どんなに自己犠牲であっても、献身的でもそれは“独りよがり”なものだと思ふ。

すなわち恋において利己的な意図や欺瞞が、少しでも介在していないと、言い切れて、認めれるでしょうか。

人間は孤独です。骨がそれぞれにあるように一体とはなり得ません。どんな恋人でも、容易に理解し合うことはできないものです。

若いときは特に人生経験が少なく、成りは少ないものです。

愛は人生における花。明日への希望です。人類の夢です。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2010年8月23日 (月) NO 138

地域から明るい未来を作ろう